



市ホームページ

総合市民センターの愛称は「MIYAMAX みやまっくす」に決定

開館記念式典は2022年9月25日開催。10月1日の開館へ向けて建設進む

図教育総務課 施設係 (Tel.32-9027)



【施設概要】

建築場所	みやま市瀬高町下庄792番地1
敷地面積	16,883平方㍍
延床面積	5,958平方㍍
建物	鉄骨造り、地上2階建て、高さ約22㍍
駐車場	256台(車いす用10台、大型用2台含む)

総合市民センターは10月1日に開館

10月1日の総合市民センターの開館まで1年を切りました。同センターは、体育館機能を兼ね備えた多目的ホールを有し、文化・芸術、スポーツ・健康、子育て支援活動などに利用できる複合施設で、本市の新たな交流拠点として運営していきます。

応募総数192点から愛称を決定

皆さんに愛される施設にするため、市では昨年9月に愛称を募集しました。市内をはじめ、北海道から沖縄まで全国から192点もの作品が寄せられました。応募作品には、市の花木である「サクラ」や「クスノキ」に関する作品が多く見られました。

文化・スポーツ協会、社会福祉協議会代表や教育委員などで構成するメンバーで選考し、愛称を栃木県の高野信夫様の作品「MIYAMAX(呼称…みやまっくす)」に決定。たくさんのご応募ありがとうございました。

施設設計コンセプトを表す愛称 MIYAMAX(みやまっくす)

MIYAMAX(みやまっくす)という愛称は、「みやま」と施設のシンボルツリー(施設を象徴する樹木)である「くす」をつないだ造語をローマ字・アルファベット表記したもので、次の3つの設計概念を表現するものです。

- ①くすⅡX(エックス)はクロスとも読み、本市を通っていた、かつてのふたつの街道(三池街道と薩摩街道)が交差してまち全体をにぎわいある空間とする「歴史」の概念を表現するものです。
- ②シンボルツリーであるクスノキが見守る「くすのき広場」がある施設で「風土」の概念を表現するものです。
- ③MAX(マックス)は英語で「最大限の」を意味し「たくさん利用される」ということを意味します。センターが、市民に最大限に活用され交流拠点となる、「共創」の概念を表現するものです。

総合市民センター建設の進捗状況



【写真左】建物南側からの様子。舞台屋上、ホールの屋根工事を重点的に実施しています。建物内部では、ダクトや電気関係配管をはじめとする内装工事を実施しています。



【写真右】建物東側からの様子。写真左側の高くなっている箇所が舞台天井部分で、吊りものを格納するため舞台上部が高くなっています。中央ホール上に複数個所のハイサイドライトを設置し、スポーツ利用、平土間利用時には自然採光により、明るい空間として利用することも可能です。右側の平屋部分には、子育て支援のためのキッズルーム、ボランティア室、和室や調理室を配置する設計となっています。



進捗状況はこちら

(写真は2021年12月の建築工事現場の状況)

開館式典は9月25日に決定

10月1日の一般供用開始を記念して、開館記念式典を9月25日(日)に開催することを決定しました。

その他記念事業として、文化・芸術、スポーツ・健康関連自主事業の開催にあたり事業内容の検討を進めています。



【多目的ホール音響反射板設置展開イメージ】

音響反射板を設置し、ピアノ、器楽発表、コーラスなどで利用。480席の移動観覧席の前にスタッキングチェアを配置し、最大約800席の観覧席配置が可能。内装は木材を利用し、壁から天井まで連続する木立を想起させる、みやまらしいデザイン。

施設予約は8月から予定

10月1日の一般利用開始に向けて必要な規定を準備中です。

利用受付開始は8月を予定しています。使用料金など詳細については、決定次第広報紙などでお知らせします。



【ホール北側ホワイエのイメージ】

ホールでの催しがなくても、気軽に訪れ、腰を下ろせる空間となるよう設計された二層吹き抜けのホワイエ。イベント時に活用できるパントリーカウンターを設置し、北面は大きなガラス張り。学生の自習や市民の語らいの場として活用が期待されます。